

研究主題 「情報の関係を整理して文学的な文章を読み、考えを形成する児童の育成 —読みの観点となる学習用語を用いて情報を関係付ける指導の工夫—」

東京都教職員研修センター研修部教育開発課
西東京市立谷戸小学校 主任教諭 清水 達郎

第1 研究のねらい

中央教育審議会答申（平成28年12月）では、今日的な教育課題の一つとして、「確かな読解力の育成」が示された。本課題の解決に向け、国語科「読むこと」の指導を充実させることが重要であると考える。特に、令和元年度の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（東京都教育委員会）において出題された「場面の様子に気を付けながら、物語の全体を捉える」問題の正答率は50.1%と低い数値であり、課題と捉えている。このことから、東京都の児童の読解力育成に向け、物語の全体を捉える能力の向上を中心として研究に取り組むこととした。小学校学習指導要領解説国語編（平成29年7月）（以下「解説国語編」と表記）には、物語の内容や表現、題材などの情報を統合的に読むことが、物語などの全体像を具体的に想像することにつながると示されている。そのため、会話文や心内語といった直接的な心情表現に加え、情景や視点といった文学的な表現や、題材に関わる作者の経験などの学習用語にも着目し、これらの情報を関係付けながら読む指導が必要であると考える。そこで、解説国語編に新設された「情報の扱い方に関する事項」を「読むこと」の学習に取り入れることで、指導の充実を図る。

以上を踏まえ、本研究では、物語文の読みの観点となる学習用語を活用し、情報の関係を整理して読む指導を追究することとした。

第2 研究仮説

文学的な文章の学習において、読みの観点となる学習用語を活用し、情報の関係を整理して読む指導に取り組むことで、児童は物語などの全体像を具体的に想像し、考えを形成することができるだろう。

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

(1) 基本的な考え方

ア 物語などの全体像を具体的に想像し、考えを形成することについて

解説国語編の指導事項と「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（国立教育政策研究所 令和2年3月）を基に、仮説に示した児童の姿を具体化した。その中で、「物語などの全体像を具体的に想像し、考えを形成すること」とは、「情景や視点などの文学的な表現や題材に関する情報と、物語の内容とを関係付けて読み、理解したことと具体的に記述すること」であると捉えた。

イ 文学的な文章の読みの観点となる学習用語について

本研究における「学習用語」とは、上記アに示した能力を育成するために、文学的な文章の読みの観点として児童に獲得させる専門用語であると定義する。具体的な用語は、解説国語編、令和2年度から使用されている国語の教科書、先行研究の事例を対象として抽出した。

(2) 先行研究の分析

文学的な文章の読みの観点となる学習用語を解説国語編、国語の教科書、先行研究の事例

(東京学芸大学国語教育学会「小学校 子どもが生きる国語科学習用語」(平成25年)等)から抽出し、項目別に整理した。項目は、解説国語編及び国語の教科書で用いられている文言を根拠とし、「構造」、「人物」、「表現技法」、「視点」、「題材」の五つとした。多くの先行研究においては、各用語を活用した指導法が示されている。これらを参考に、複数の学習用語を関係付けた単元指導を開発することが、「物語の全体像を具体的に想像し、考えを形成する」力の育成につながると考えた。単元指導の開発に当たり、重点的な指導事項を明確にするため、文学的な文章を読むことの課題を調査することとした。

2 調査研究

令和2年9月1日から9月8日までの期間に、都内公立小学校1校に在籍する第5学年児童65名を対象とした意識調査を実施した。調査においては、先行研究の分析を通して設定した項目を基に、児童が使用する教科書において読みの観点として示されて

表1 意識調査結果
「物語を読むときに気を付けていること」(n=65)

設問項目	気を付けている	どちらかといえば 気を付けている
場面の移り変わり	56%	29%
人物の気持ちの変化	56%	29%
情景	23%	31%
語り手の思い	16%	29%
特別な言葉	31%	35%

いる学習用語から五つを選び、設問項目として設定した。本調査により、設問項目の「情景」、「語り手の思い」を意識して読んでいる児童の割合が他の項目と比べて低いことが明らかになった(表1)。これらの観点は、登場人物の心情等を間接的に表した文学特有の表現である。このことから、単元指導における重点的な指導事項として、文学的な表現に着目して登場人物の心情を読む指導を充実させる必要があると考えた。

3 開発研究

基礎研究及び調査研究を通して明らかになった課題を解決するために、以下の開発研究に取り組んだ。

(1) 文学的な文章の読みの観点となる学習用語系統表の開発(図1)

基礎研究において抽出した読みの観点となる学習用語を学年及び項目別に再整理し、学習用語系統表を開発した。児童の発達の段階と国語の教科書に掲載されている教材の内容を踏まえ、段階的な指導ができるように工夫した。

第5学年及び第6学年	
構造	・前書き ・山場 ・物語の展開(問題点・解決方法・結果)
人物	・相互関係 ・心情(の変化) ・人物像 ・ものの見方
表現技法	・比喩表現 ・反復 ・体言止め ・暗示
視点	・一人称視点 ・三人称視点 ・語り手と人物の関係
題材	・題材 ・物語の全体像 ・作者の経歴

図1 文学的な文章の読みの観点となる学習用語系統表(一部抜粋)

物語の全体像	作者の経歴	題材	描写	地の文
○物語の内容表現、題材などを理解するもの ○関係付けで想起させるもの	○物語の題材に関する作者の経験や、大切にしている思い、ことだいなど	※「自然」「恋愛」「友情」など ○物語によって「物語のもの」となるもの ○物語によって「物語のテーマ」となるもの ○物語によって「物語の登場人物」となるもの ○物語によって「物語の背景」となるもの ○物語によって「物語の状況」となるもの ○物語によって「物語の状況を語り手の観察や想像によって表現する工夫」	○物語の状況を語り手の観察や想像によって表現する工夫	○会話文以外の文 ○語り手が読者における文
一人称視点	情景	視点人物	視点	語り手
○視点人物が語り手にもなっている ○視点人物が語り手の立っている位置	○視点人物が語り手の立っている位置 ○視点人物が語り手の立っている位置	○視点人物が語り手の立っている位置 ○視点人物が語り手の立っている位置	○視点人物が語り手の立っている位置 ○視点人物が語り手の立っている位置	○物語の地の文を語る人

図2 文学的な文章の読みの観点となる学習用語掲示物(一部抜粋)

(2) 文学的な文章の読みの観点となる学習用語掲示物の開発(図2)

学習用語系統表を基に、情報の関係を整理して読む観点となる学習用語の掲示物を開発した。これらを、新出の学習用語の指導又は既習の学習用語について振り返る指導に活用する。本掲

示物は全60種あり、当該単元で指導する学習用語名と、その意味を児童が理解できるように端的に表した文を記載している。高学年においては、関連する複数の学習用語を提示し、それらの関係性を理解させることで、読みの観点を関係付けながら情報を整理する読み方を指導する。

(3) 文学的な文章の読みの観点となる学習用語を活用した単元指導モデルの開発（図3）

情報の関係を整理して読む指導の具体として、読みの観点となる学習用語を活用した単元指導モデルを開発した。本モデルでは、解説国語編に示された国語科の学習過程の中から、「構造と内容の把握」、「精査・解釈」、「考えの形成」の過程を取り上げ、それぞれの一単位時間の指導内容を整理した。その中で、関係付ける情報とその際に活用する学習用語を示すとともに、これらを使って情報を整理するための問い合わせの例などを示した。問い合わせに対する答えを考える過程を通して、物語などの全体像を具体的に想像し、考えを形成することができると考える。

文学的な文章の読みの観点となる学習用語を活用し、「物語などの全体像を具体的に想像し、考えを形成する能力」を育成する単元指導モデル

学習過程	育成を目指す資質・能力	関係付ける情報	読みの観点となる学習用語	情報を整理するための問い合わせの例	主な言語活動の例
考え方の形成	物語を初めて読んで思ったことや考えたことを書く力	物語の題名と内容との関係	「題名」「作者」「物語の全体像」	①題名を読み、どのような内容の物語を想像したか。 ②初めて読んで、どのようなことを思ったり考えたりしたか。 ※交流活動を通して感想を分類・整理し、児童が着目した叙述から物語の全体像に関わる読みの観点を明らかにする。 ③この物語を読み深めるために、どのような読み方で読むか。	題名に着目して物語の内容や作者の意図などについて考える。物語を通説して初発の感想を交流し、読みの観点を基に学習計画を立てる。
構造と内容の把握	登場人物の相互関係を捉える力	中心人物の成長と対人物との関係	「中心人物」「対人物」	①物語の中心人物は誰か。 ②中心人物の成長に関わった対人物は誰か。 ③中心人物は対人物とどのように関わり、どのように成長したのか（おおまかに）。	中心人物とその成長に関わった対人物との関係を中心に、登場人物の相互関係を人物相関図にまとめる。
	物語の展開を捉える力	中心人物が抱える問題点とその解決方法、結果の関係	「中心人物」「問題点」「解決方法」「結果」	①中心人物が抱える問題点は何か。 ②中心人物はどのような方法で問題点を解決したのか。 ③結果として、中心人物の何がどう変わったか。	物語の導入部と展開部、終末部に着目して、中心人物の変容を「問題点」「解決方法」「結果」の順に記述する。
精査・解釈	物語の視点について考える力	語り手の存在と視点人物との関係	「語り手」「視点」「視点人物」	①語り手は誰の視点から物語を語っているか。 ②語り手と視点人物はどのような関係か。 ③語り手の語り方から、よく伝わってくることと伝わってこないことは何か。	教師が作成した文章と教材文の比較を通して、語り手の語り方の特徴について気付いたことを記述する。
	物語の情景を意味付ける力	情景と視点人物の心情との関係	「情景」「視点人物」「心情」	①視点人物の心情が描かれている情景はどれか。 ②情景の中で、視点人物の心情が表れている文はどれか。 ③視点人物はどのような心情でその情景を見ているか。 ④視点人物がそのような心情になったのはなぜか。	情景が描かれた文章を探すとともに、色彩表現や擬態語などに着目して、情景の特徴を視点人物の心情と関係付けて記述する。
	題材について解釈する力	物語の題材と作者の経歴との関係	「題材」「作者の思い」「作者の経歴」	①物語を通して伝わってきたことを短くまとめるか。 ②それはどの文や言葉から伝わってきたか。 ③作者はどのような思いをもってその文や言葉を書いたのだろうか（インターネットや関連図書資料で調べる）。	物語の題材に関連する作者の情報をインターネットや関連書籍を活用して調べ、分かつたことを付箋紙に記述する。
考え方の形成	物語の内容、表現、題材を関係付けて学習感想を書く力	物語の内容、表現、題材等の関係		①何が書かれていたか。 ②それはどのように描かれていたか。 ③そこから伝わってきたことは何か。 ④その中で、特に印象に残った文や言葉は何か。 ⑤その文や言葉から自分が考えたことは何か。	物語の表現のよさや題材について考えたことを、物語の内容と関係付けて感想文にまとめたり、プレゼンテーション資料などにまとめたりして、発表する。

図3 文学的な文章の読みの観点となる学習用語を活用した単元指導モデル

4 検証授業

都内公立小学校1校に在籍する第5学年児童65名を対象に、国語科の文学教材「たずねびと」を用いた検証授業を実施した。

(1) 検証の視点

読みの観点となる学習用語を活用し、情報の関係を整理して読む指導に取り組んだことは、児童が物語などの全体像を具体的に想像し、考えを形成する上で有効であったか。

(2) 検証の結果と考察

ア 結果（表2）

表2 抽出児童の学習感想の記述内容（一部抜粋）を対象とした結果分析

児童	第一次に取り組んだ学習感想の記述	第三次に取り組んだ学習感想の記述	関係付けた読みの観点
A児	表現に着目して読む。語り手はいるのかいないのか、だれなのかを知りたい。どのような表現から読めば分かりやすくなるのかを知りたい。	この単元で知りたかった「情景」が分かるようになった。情景には中心人物の成長や思いなどが描かれていることを知った。そして成長を見つけることはとても重要なことだということも分かった。これを知ることで物語の進み方が分かるからだ。	「情景」「心情」

B児	色彩語や情景に気を付け、そこにかくられた綾の心情や作者の意図を読み取りたい。	綾の思いに本当に「共感・共苦」ができた。一人称視点で描くことで、綾の心の成長や心情の変化、綾だからこそ見える風景が分かりやすく、それが綾に共感・共苦できた理由の一つだ。物語のテーマの一つは「綾の成長」だと思った。	「視点」「心情」
C児	私は視点に注目していきたい。追悼平和祈念館に入ったところから、綾から見た人々が増えている。そこから、この物語が伝えたいことや思いが見つけられると思った。	作者がどのような気持ちで本を書いたのか、表現とどのような関係があるのかなどを学んだ。作者が物語を書くときの気持ちを考えたことがなかったけれど、インターネットを調べたことで、物語を書くときにはきっかけがあることが分かった。これからは作者にも注目して物語を読みたいと思う。	「作者の経験」「題材」

イ 考察

- ・ A児及びB児の記述から、文学的な表現と登場人物の心情の関係を意識しながら読み、それについて考えたことを記述できるようになったことが分かる。これと同様の変容が見られた児童の割合は、学年全体の79.6%であった。このことは、「視点」や「情景」などの学習用語を活用して読む指導をしたことと関連すると考えられる。この結果は、検証授業前後で実施した意識調査において、文学的な表現に「気を付けて読んでいる」又は「どちらかといえば気を付けて読んでいる」と回答した児童の割合が高くなつたこと（表3）と一致する。
 - ・ C児の記述から、作者の経験と物語の題材の関係を意識しながら読み、それについて考えたことを記述できるようになったことが分かる。これと同様の変容が見られた児童の割合は、学年全体の81.3%であった。このことは、「作者の経験」や「題材」などの学習用語を活用し、インターネットや関連図書資料から収集した情報を関係付ける指導をしたことと関連すると考えられる。
- 以上のことから、学習用語を活用し、情報の関係を整理して読む指導に取り組んだことは、文学的な表現や題材に関する情報と物語の内容とを関係付けて読む力の育成につながつたと考える。

第4 研究の成果

研究の過程において、文学的な文章の読みの観点となる学習用語を整理したことで、文学的な文章の学習における指導事項を具体化し、開発物を作成することができた。

また、児童の変容や意識調査の結果から、読みの観点となる学習用語を活用し、情報の関係を整理して読む指導は、文学的な表現や題材に関する情報と物語の内容とを関係付けて読む力を育成する方略であることが明らかになった。これは、仮説に示した「物語などの全体像を具体的に想像し、考えを形成する」力の具体的の一つであると考える。

第5 今後の課題

児童が読みの観点となる学習用語を活用して関係付けた情報を整理する技能を身に付けるために、解説国語編「情報の扱い方に関する事項」に示された「図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと」の指導の充実を図る。例えば、思考ツール等を用いて物語上の情報の関係を図解化する指導を文学的な文章の学習過程に位置付けることで、「物語などの全体像を具体的に想像し、考えを形成する」児童を育成する。

表3 意識調査結果における変容
「物語を読むときに気を付けていること」(n=65)

設問項目	気を付けている		どちらかといえば気を付けている	
	事前	事後	事前	事後
情景	23%	40%	31%	42%
語り手の思い	16%	38%	29%	40%